

エル・ネット「オープンカレッジ」 News

VOL.5 2001.2.20 発行

発行：高等教育情報化推進協議会 東京都港区虎ノ門1-17-1視聴覚ビル内 TEL：03-3591-2186 URL:http://www.opencol.gr.jp

エル・ネット「オープンカレッジ」各地でモデル事業を実施

すでにお知らせしていますように、高等教育情報化推進協議会では今年度7地区に、エル・ネット「オープンカレッジ」の効果的な活用についてのモデル事業をお願いしています。今回は、そのなかから、岐阜県、広島県、島根県、青森県の事例をレポートいたします。それぞれの実践事例は、ホームページ（<http://www.opencol.gr.jp>）で紹介していく予定です。

◆モデル事業委嘱先

- 青森県総合社会教育センター ○山形県尾花沢市学習情報センター ○長野県松本市中央公民館 ○岐阜県図書館
- 広島県立生涯学習センター ○島根大学生涯学習教育研究センター ○国立赤城青年の家

モデル事業

青森県総合社会教育センター

青森県総合社会教育センターでは、淑徳短期大学と連携し、講座『福祉社会を生きる』を活用して実施しました。2月7日「市民主体性の形成とボランティア活動」と「ボランティア活動の原理と原則」(塩野敬祐淑徳短期大学助教授)の2講義、2月8日「介護保険制度と社会福祉の展望」(亀山幸吉淑徳短期大学教授)の1講義、どちらも講義と双方向質疑を織り交ぜた形で行いました。

メイン会場は東京の国立科学博物館で、サテライト会場は、青森県の社会教育施設と千葉県館山市で、館山市はエル・ネット受信設備を備えた館山市立第三中学校を借りて行われました。青森県では、総合社会教育センターが中心となり、エル・ネット受信設備を持たない藤崎町文化センター(ここには総合社会教育センターよりISDNテレビ電話で配信)と、受信設備を持つ十和田市東公民館をサブ・サテライト会場として質疑を行い、また、県内の単独受信会場としてむつ市図書館も加わってすすめられました。サブ・サテライト会場の質疑について

は、メイン・サテライト会場の総合社会教育センターにFAXで送信し、国立科学博物館まで質疑を中継してもらうというシステムです。(図参照)

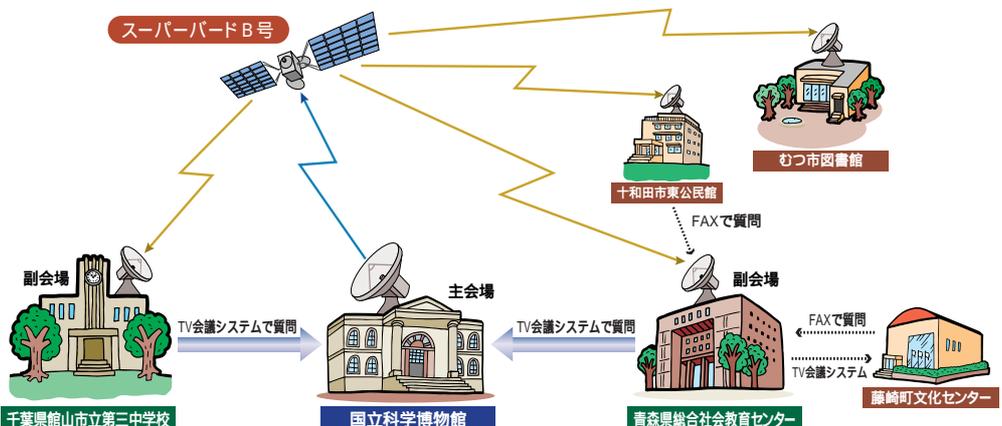
2月7日、当日は青森会場は雪、館山会場は雨と、衛星の受信状態の悪化が懸念されていましたが、大きな影響はありませんでした。青森県総合社会教育センターには、約40名の受講者が集まり、講座の途中にもうけられた質疑時間に、日常の体験を基に、講師に熱心に質問が行われました。



質疑は、講座の進行にあわせて20分ごとに行われました。最初20分講義が行われ、その内容について青森会場と10分間質疑応答があり、また20分講義が行われ、それについて館山会場と10分間質疑応答が行われるという方法で進行されました。この方法は、講義内容が20分単位でまとまっているため、受講者も質問の的を絞りやすいという長所があります。今回、質疑応答が活発だったのもこの進行方法の効果があったものと思われる。

館山会場でも40名弱の受講者が、ボランティアの在り方や有償ボランティアの概念などについて、普段はなかなか問い合わせることができない内容を熱心に質問がなされました。今回は、自らボランティアとして実践している方が多いせいか、体験に重ね合わせた具体的な質問が多いのも特徴でした。

図・双方向通信システム



モデル事業

岐阜県図書館

岐阜県図書館では「『教育情報衛星通信ネットワーク高度化事業』モデル事業実施委員会」を立ち上げ、図書館で行う「オープンカレッジ」について検討した結果、県内の大学で行われる講座や図書館関係の講座、また図書館で重点的に資料を収集している分野の講座を開催することにしました。

第1回の講座は1月13日(土) 徳島大学講座「職人に学ぶ～技の伝承と文化～」(森和夫徳島大学教授)を用い、岐阜県図書館の研修室で行いました。県図書館では重点収集資料の一つとして「匠」に関係する図書や雑誌を集めています。伝統的職人の実態をとらえ、それを現代産業に生かそうというこの講座の主題は、陶器や刃物といった地場産業が盛んな岐阜県ではとくに興味

をもたれたものです。

2週にわたって放送された講座を録画し、それぞれ午前と午後に分けての受講としました。広報から実施にかけての期間が短かったせいもあり、参加者は少人数ではありましたが、みな熱心に講師の言葉に耳を傾けている様子でした。

開講場所が図書館であるという特性を生かし、講義中に紹介された参考資料のうち県図書館で所蔵しているものを、受講者が実際に手にとって見ていただけるよう展示しました。講義に対する関心や理解を深めるとともに、「図書館にこういう本があるとは知らなかった」と大変喜ぶ受講者もいらっしゃいました。これらの資料は当然、講座終了後は借りたり予約したりすることができるので、一度講義を受けてそれで終わりとするのではなく、受講者各々の長期的な学習・研究に資することができます。

また講座に用いたビデオテープやテキストは図書館の所蔵資料として受入れ、研修室での講座に参加できなかつ

た方が別の日に一人でも講座を視聴できるようにしました。

今後は岐阜大学や図書館情報大学などの講座を録画、あるいはリアルタイムで開講する予定です。(岐阜県図書館資料課逐次刊行物係主事(司書) 渡辺 基尚)



「オープンカレッジ」のデザインを参考にした岐阜県図書館開講講座のポスター

モデル事業

広島県立生涯学習センター

広島県立生涯学習センターでは1月20日に佛教大学講座『少子・高齢社会への対応』第1回「高齢化の現状と今後の課題」(永和良之助佛教大学教授)が行なわれました。

今回は、エルネット「オープンカレッジ」とテレビ電話を組み合わせた双方向質疑を含む試みです。

当日は受付開始後の早い時間帯から受講者の方が会場に集まり、講義開始前には会場は50名の方々に一杯となりました。講義のテーマも一般に関心の高い内容ということと、事前に一部の新聞で内容が取り上げられたこともあり、広島市以外からの応募も多かつ

たようです。講座が始まると、会場に設けられた大型スクリーンに向かい、熱心に耳を傾けている姿がうかがえました。また、時折、配布されていたテキストに目を落としながら、質問用紙に疑問点を記入する姿も見られました。質疑応答の時間は講義の後半に設けられていましたが、講義開始前は質疑応答の時間を有効に活用できる程、質問が集まるかどうかを疑問視する声もありました。実際は、質疑応答時間が足りなくなるほど質問が集まりました。今回のテーマである少子化や高齢社会の関心の高さがうかがわれました。講師の先生も分かりやすく丁寧に回答されていました。受講者の方からの講義の感想をいくつかあげてみると、「講義の内容が非常にわかりやすく良かった、特に質疑応答時間が非常に良かった。」「ただ講義を聞くのではなく、先生と双方向にお話できたのでより理解が深まり、良かった。」「質疑応答時間がもっと欲しかった。」など今回の講座が充実していたことがうかがえました。

今回の講座はボランティアの方が中心になって運営しています。

ボランティアの方は講義終了後に集まり、今回の反省、次回の打ち合わせ



を実施していました。

その中で衛星通信とテレビ電話を組み合わせた双方向通信については、「当初、不安だったが、思ったよりスムーズに行えた。」「先生とリアルタイムでお話できたのが非常に良かった。」「今回のテレビ電話と衛星を使った双方向の運用は初めてだったため、事前に講師の方と実際のシステムを使った上での打ち合わせ時間も設けた方がより良かった。」などの次回に向けての意見も出されていました。

2月3日には第2回「子どもの発達保障と子育て・子育て支援」(丸山美和子佛教大学専任講師)が行われました。ここではエル・ネットによる受講後にグループ討議を行い、翌週の2月10日に丸山先生が実際に会場にお越しになり、補講を含めた質疑により、直接ご指導いただきました。



モデル事業

島根大学生涯学習センター

島根県では、島根大学生涯学習教育研究センターが中心となり、県内町村教育委員会との連携のもとに「島根市町村コミュニティ・カレッジ協議会」を結成し、エルネット「オープンカレッジ」を利用したコミュニティ・カレッジを試行的に運営しています。参加しているのは石見町教育委員会(中央公民館)、西郷町教育委員会(西郷町公民館)、頓原町教育委員会(頓原公民館)、匹見町教育委員会(匹見上公民館)の4公民館です。これに島根大学生涯学習教育研究センターを含めた5か所を受講会場に、1月22日(月)~2月17日(土)の4週間に渡って、28大学、28講座、78講義、それに国立女性教育会館が提供する「家庭教

育セミナー」4回を含めた学習メニュー(下表)を独自に作成し実施しました。利用形態は録画利用、放送ナマ利用半々といったところです。

応募状況をみてみると、地元の島根大学、島根医科大学を別にすると、それぞれの公民館で多いコマで14~15名、応募のないコマも若干ありましたが、全体で延べ1300人の申し込みがありました。やはり、健康や医学、福祉など生活に密着した内容の講座に人気集中しているようです。

コミュニティ・カレッジ協議会では、「学習の手引き」を作成して、受講者に配布しています。それによると、学習メニュー表の中から、10コマ以上の受講を原則として、そのうち島根大学の講座3コマは必修としています。それ以外は受講者自身が興味関心に応じて学習プランを作成して、自分なりの「学習の目標」や「学びのふりかえり」を記入できるように工夫されています。

今回のコミュニティ・カレッジでは、県

庁所在地の松江市では、島根大学だけの受講ということで、松江市民全体への広報は行わず、生涯学習研究センターに登録されている方のみへの広報となりました。市内の受講施設の協力が得られれば、500人の参加申し込みも可能だそうです。

中山間地域において、専門的な知識を提供する大学公開講座に対する潜在的ニーズは高く、その掘り起こしに、行政や地域が工夫をしていただければ、新しい生涯学習の機会を飛躍的に増大させることができるのではないかと思います。



島根コミュニティ・カレッジ/学習メニュー表(衛星放送)

	午前 10:00~12:00	午後 13:30~15:30	午後 16:00~18:00	夜 18:30~20:30
1月22日(月)	『消化器がんの新しい診断と治療法』山口大学	『コミュニティの振興を考える』常盤大学	『宮崎の生活空間と科学技術の接点』宮崎大学	
1月23日(火)	『現代人の食と健康』女子栄養大学	『21世紀の社会と女性』十文字学園女子大学	『スポーツと健康・福祉』仙台大学	『家庭介護』東京都立保健科学大学
1月24日(水)	『情報社会を読み解く12講』長岡技術科学大学	『宮崎の生活空間と科学技術の接点』宮崎大学	『21世紀へ向けての新しいライフスタイル』淑徳大学	
1月25日(木)	『観光と文化』岐阜女子大学	『演習実験講座』横浜国立大学	『いきいきと生きる』中央大学	『市民のための簿記 基本入門講座』中央学院大学
1月26日(金)	『情報社会を読み解く12講』長岡技術科学大学	『人と動物とのインターフェイス』大阪府立大学	『21世紀日本の課題』聖学院大学	
1月27日(土)			『腎臓の話』新潟大学	『やまとから知的資源の開放 日本・世界 奈良教育大学
1月28日(日)		『たたら製鉄と出雲の地域文化』島根大学		
1月29日(月)	『消化器がんの新しい診断と治療法』山口大学	『やまとから知的資源の開放 日本・世界 奈良教育大学	『人と動物とのインターフェイス』大阪府立大学	『家庭介護』東京都立保健科学大学
1月30日(火)	『現代人の食と健康』女子栄養大学	『人と動物とのインターフェイス』大阪府立大学	『人と動物とのインターフェイス』大阪府立大学	
1月31日(水)	『21世紀の社会と女性』十文字学園女子大学	『宮崎の生活空間と科学技術の接点』宮崎大学	『西洋美術史講座』東北芸術工科大学	『市民のための簿記 基本入門講座』中央学院大学
2月1日(木)	『観光と文化』岐阜女子大学	『演習実験講座』横浜国立大学	『いきいきと生きる』中央大学	
2月2日(金)	『情報社会を読み解く12講』長岡技術科学大学	『たたら製鉄と出雲の地域文化』島根大学	『スポーツと健康・福祉』仙台大学	『いろいろな子育て・外国の子育て事情』国立婦人教育会館
2月3日(土)	『アジア 多様な文化へのまなざし』東京外国語大学	『たたら製鉄と出雲の地域文化』島根大学	『腎臓の話』新潟大学	
2月4日(日)		『たたら製鉄と出雲の地域文化』島根大学		
2月5日(月)	『消化器がんの新しい診断と治療法』山口大学	『職人に学ぶ 技の伝承と文化』徳島大学	『現代社会の中の心理学』札幌学院大学	
2月6日(火)	『現代人の食と健康』女子栄養大学	『少子・高齢社会への対応』佛教大学	『スポーツと健康・福祉』仙台大学	『家庭介護』東京都立保健科学大学
2月7日(水)	『福祉社会を生きる』淑徳短期大学	『福祉社会を生きる』淑徳短期大学	『プレゼンテーションの技法と実践』多摩大学	
2月8日(木)	『福祉社会を生きる』淑徳短期大学	『演習実験講座』横浜国立大学	『現代社会の中の心理学』札幌学院大学	『市民のための簿記 基本入門講座』中央学院大学
2月9日(金)	『情報社会を読み解く12講』長岡技術科学大学	『やまとから知的資源の開放 日本・世界 奈良教育大学』	『私たちのくらしと経済・企業の国際化』早稲田大学	
2月10日(土)			『腎臓の話』新潟大学	『親子のコミュニケーション』親から学んだもの』国立婦人教育会館
2月12日(月)	『消化器がんの新しい診断と治療法』山口大学	『職人に学ぶ 技の伝承と文化』徳島大学	『現代社会の中の心理学』札幌学院大学	『家庭介護』東京都立保健科学大学
2月13日(火)	『現代人の食と健康』女子栄養大学	『少子・高齢社会への対応』佛教大学	『スポーツと健康・福祉』仙台大学	
2月14日(水)	『異文化間コミュニケーション』名古屋学院大学	『今求められる「犯罪被害者」への理解と支援』常盤大学	『プレゼンテーションの技法と実践』多摩大学	『父親の地域参加』家庭での父親の役割』国立婦人教育会館
2月15日(木)	『今、細くて長い形がももしろい』京都芸工芸大学	『演習実験講座』横浜国立大学	『やまとから知的資源の開放 日本・世界 奈良教育大学』	
2月16日(金)	『情報社会を読み解く12講』長岡技術科学大学	『やまとから知的資源の開放 日本・世界 奈良教育大学』	『コミュニティの振興を考える』常盤大学	『みんなで支える子育て』国立婦人教育会館
2月17日(土)	『アジア 多様な文化へのまなざし』東京外国語大学	『脳卒中予防講座』島根医科大学	『腎臓の話』新潟大学	

実践事例

千葉県
「栄町公民館」

千葉県栄町公民館では、1月31日に山口大学公開講座『消化器がんの新しい診断と治療法』第4回「予防するには？」が行われました。

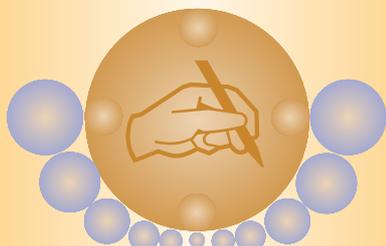
栄町では、平成5年より「いきいき100単位さかえ」事業を実施しています。この生涯学習支援事業は、学習者が自発的に目標を定めて、学習プログラムを作成し、学習手段を選択して、2年間で100単位を修得するものです。これまで約500名の参加があり、約200名が100単位を修得しま

した。修得する100単位中20単位は必修選択科目として、行政の主催する事業が割り当てられています。エル・ネット「オープンカレッジ」もその中の1つで、1講座が1単位として換算されています。

受講日は、1月27日の雪がのこる寒い日にもかかわらず、20名の受講者が集まって熱心に受講していました。毎回、講義終了後には机を円く



並べ変えて、受講者が意見交換を行っています。今回は、その時間をお借りしてエル・ネット「オープンカレッジ」について貴重なご意見をおうかがいすることができました。「先生に質問をしたい」、「講義の時間はもう少し長くてもよい（当日は30分の講義）」、「(テロップの)文字が小さい」などご意見を頂戴しました。生涯学習は孤独な学習方法になりがちです。栄町ではエル・ネット「オープンカレッジ」を活用して、生涯学習の集団で学習する機会とコミュニケーションの場を提供しています。1人の受講者でも事前に申し出があれば、公民館での受講に立ち会われている栄町教育委員会の職員方々の努力も、もちろん忘れてはなりません。来年度には、栄町公民館から生涯学習の拠点となる施設である「ふれあいプラザさかえ」に受信設備を移設することです。



講座を受講された方々のアンケートより

講座を受講された方々からの反応はおおむね良好で、その学習意欲の高さが伺えましたが、講座に対するいくつかの指摘、要望等もいただきました。それらの意見をまとめますと、①学習者は対面授業に慣れているため、大画面を使って映し出

される授業に興味を感じるが、眼が疲れてしまい、集中力の持続が難しい、②どのような対象を想定しているのかを明確にし、それに沿った内容、レベル、放送時間帯等を考慮してほしい、③講座についての告知をもっと広くにわたり、早い時期に、確実に行ってほしい、という3つに分けることができました。

質疑の方法については、あまり多くの意見をいただくことができませんでしたが、その中で、双方向で質疑のできるスタイルを考えてほしい、もっと質問の時間があり、もっと多くの質問ができるような体制を考えてほしいというような意見があがりました。

希望する講座内容については、主として、生活に密着した身近なテーマ、時事的なテーマ、文化・趣味に関するテーマを希望する声がありました。具体的には、生活に密着したテーマとして、子育てや介護、食生活等に関する内容、時事的なテーマとして、環境問題、公共事業、金融崩壊等の社会問題や、心理学、ボランティア等に関する内容、文化・趣味に関するテーマとして、地理や歴史、美術等に関する講座の要望をいただきました。

アンケート葉書はテキストに添付されています。受講された方々のご意見・ご要望をお待ちしています。

(事務局)

◆文部科学省「エル・ネット」ホームページを新規オープン!!◆

文部科学省では、この度、同ホームページ内に、「エル・ネット」のホームページをオープンしました。エル・ネット「オープンカレッジ」を初め、「子ども放送局」や各種の番組の放映予定や特別番組の案内、受信局一覧などを御覧いただけます。また、受信局用ページでは、「放送・一斉データ送信スケジュール表」や「受信操作シート」「著作権システムの手引」など、エル・ネット関連情報が満載です。

エル・ネット「オープンカレッジ」ホームページもバージョンアップいたしました。最新の放送日程や受講に関する情報、テキストの申し込みや、新設された講師への質問コーナーなど、オープンカレッジを活用するための様々な情報を掲載しています。

文部科学省 エル・ネットのホームページ

http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/elnet/

エル・ネット「オープンカレッジ」ホームページ

<http://www.opencol.gr.jp/>